

北國とびら



特集

アートゼミ事業

アンドロイド演劇

インタビュー

森本 千絵



No.

90
OCTOBER 2011



上：作品中央覗き穴より見える
生と死の境界(魂の緒)
下：作品中央拡大

「鎮守の森」 (H200cm×W300cm×D300cm) 2011年
木材 紙 その他

魂と自己の存在価値を表現する

タ張という街は、喜びと悲しみが交互に行きかう、無常の街である。炭住跡と慰靈碑は至る所にあって、過去の記憶を保つ。幼い頃、私が一番恐ろしかったのは、坑内爆発による地震と、その後けたたましく鳴るサイレンの音だった。お盆には沢山の灯篭が川を流れた。この体験が、「魂」というものを特別に考えるきっかけとなつた。うまく言えないが、私には、原始感覚を頼りに、立体表現に向う意味がここにあると思っている。

作品「幾千年の眠り」は、魂と機械装置による永久性をテーマに、「鎮守の森」は鎮魂と生と死の狭間(魂の緒)を表した。「ノスタルジア」は異国間の文化や価値観を超えて望郷の念は同じ、ということを描いた。魂は時空を跨ぎ旅をする。

魂を見つめ創造することは、自分の存在価値を表すことに共通していると思っている。(櫻井)

Art Gallery

Vol.21 立体・絵画

北海道のアートシーンを担っていく
若手アーティストを、
絵画・立体・工芸から
紹介します。

北とびら

ロゴのコンセプト

生きる勇気と喜びをもたらす
文化の普遍的なチカラ
“精神的な豊かさ” “活気” “感動”を
3つのプラスで表現しています。

No.
90
OCTOBER 2011

東日本大震災の被災者の皆様に
心よりお見舞いを申し上げます。
北海道文化財団は、文化芸術活動を通じて
さまざまな支援活動に努めてまいります。

表紙／アート体感教室
[中標津町立養老牛小学校・森本千絵ワークショップ]



「幾千年の眠り」 (H250cm×W300cm×D300cm) 2010年
木材 アクリル樹脂 紙 その他



「ノスタルジア」 (100cm×80cm) 2010年
アクリル 和紙 ペニヤ

- 02 アートギャラリー [第21回]
櫻井 亮 (美術家)
- 04 インタビュー
森本千絵
- 特集
- 06 アンドロイド演劇
『さようなら』&『トークセッション』
- 08 ステージ
『新冠ピッグバンド ジャズフェスティバル 2011』
- 10 地域からのお便り
・長沼町
- 11 アートのチカラ
・宮城県南三陸町
- 12 この街この人 [第17回]
礼文町
- 共催事業レポート
- 14 北斗市／北海道ユニアーサル上映映画祭実行委員会
松前町／文化の香り漂う書のまちづくり推進協議会
- 15 Information

「北とびら」は、全道の文化ホール、文化施設などで
ご自由にお持ちいただけます。
※定期的に講演をご希望の場合、当財団へお問い合わせください。



R100

紙と地域環境保護のため吉紙100%の再生紙と
植物油インキを使用しています。

表紙写真／西山 大介



美術家

櫻井 亮 Sakurai Ryo

夕張市出身、在住。2007年新道展協会賞受賞。
2010年STVエントランスアート個展、北海道立体
表現展、JRタワーアートプラネット2010、平成の
「生まれ出づる悩み」コンテスト、2011年抽象彫刻
30人展一北の作家たちー、ハルカヤマ藝術要塞
2011など出品多数。



アートディレクター・コミュニケーションディレクター

森本 千絵

千 絵

「なぜか記憶に残るモノ」を、いつまでも作り続けたい。

中標津町立養老牛小学校でおこなわれた、「アート体感教室」で講師を務めた森本千絵さん。大手企業の広告や有名ミュージシャンのPVを手がけるなど、広告業界の第一線で活躍するアートディレクターです。動物園を魅力的にするためのプロジェクトや保育園の内装、子どもたちとおこなうワークショップなど、活動は非常に多岐に渡っています。

近年は「コミュニケーションディレクター」として精力的に活動している森本さんに、広告制作の枠組みを超えた活動について伺いました。

□ ミュニケーションと 「こ縁」からモノづくり

CM制作、空間デザイン、本の装丁、

私の場合はどんな種類の仕事でも、スタッフやクリエイントとの「ミニュニケーションからのスタートになります。「最近どうします?」から「こんな経験をしてね…」というプライベートな話題まで、さまざまな話をする中から、企画や表現に結びついでいく。お互いにぶつかりあいながら引き出しあって、「あの人と私の間のようなモノ」をつくっていく。

森本千絵さんによると、この「こ縁」は、私にとって、特別に大切なものなんですね。

2010年は、NHKの朝の連続

テレビ小説「てっぱん」のタイトルデザインを手掛けました。番組のテーマである「絆・つながり」を表すために、いろんな人たちが一緒にダンスを踊るタイトルバックを提案。

そして、一般の方から、仲間と一緒に踊った映像を投稿してもらう仕組みが生まれました。これは好評で、全国各地はもちろん、海外からも投稿がありました。

ア イデイアが手を離れる瞬間、そこまでを作るのが私の仕事

養老牛小学校でのワークショップでは、子どもたちと一緒に「卒業アル

と、そこから生じる「こ縁」。これは私にとって、特別に大切なものなんですね。

2010年は、NHKの朝の連続

テレビ小説「てっぱん」のタイトルデザインを手掛けました。番組のテーマである「絆・つながり」を表すために、いろんな人たちが一緒にダンスを踊るタイトルバックを提案。

そして、一般の方から、仲間と一緒に踊った映像を投稿してもらう仕組みが生まれました。これは好評で、全国各地はもちろん、海外からも投稿がありました。

た人、投稿して放送された人だけではなく、見ていた人も、「ドラマを見ることでのつながり」を感じくれたのではないかと思います。

この例からもわかると思いますが、私はデザインという枠の中だけでなく、人を繋ぐことに對して、幅広く、自由に関わっていきたいんです。その思いから「コミュニケーションディレクター」という肩書きを使っています。

CO.,LTD. 5-12-3F
goen@goen.co.jp
www.goen.co.jp
YAMADA, MI
No.90 月刊Zurie | 04



△思い出のシーンをみんなで再現して撮影。卒業生や地域の方も出演した

◀みんなで大きなフレームを作成。
完成後、フレームに校舎と全員
が入るシーンを撮影した
撮影の様子は、表紙をご覧ください

◆この日の「ご縁」の記念に、森本さんから5円玉を
模した「goen'コイン」をプレゼント

中標津町立養老牛小学校・
森本千絵ワークショップ
・平成23年7月29日(金)・30日(土)
・中標津町立養老牛小学校

アート体感教室

子どもたちの豊かな想像力や表現力を育むことを目的に、国内外で活躍するアーティストが学校やホールに出向き、子どもたちと一緒にワークショップや創作活動を行い交流する事業です。

*詳細は北海道文化財団まで
お問い合わせ下さい。

写真／西山 大介

Profile

武蔵野美術大学卒業後、(株)博報堂に入社。2007年に独立し、(株)goen' (ゴエン)を設立。goen' とは「出逢いを発明する。夢をカタチにし、人をつなげていく」集団。

SONY企業広告「make.believe」、サントリー缶コーヒー「BOSSシルキーブラック」等の広告のほか、Mr.Children 「SENSE」などミュージシャンとのアートワークと、PV演出にも携わる。

子どもたちとのワークショップは、2011年9月より「coen」として定期的な取り組みとして始める。

広告・デザインの枠を超えて、「縁」があるもの全てにおいて幅広く活動中。N.Y.ADC賞など受賞多数。

子どもたちとのワークショップは
おもしろいですよ。子どもは、樂しく
なかつたらすぐに飽きてしまう。
だから本気でおもしろいことを考え
続けて、子どもたちと共犯関係にな
って、私自身が全力で楽しみ続け
るんです。

今回は撮影場所を決める段階で、

子どもたちが「音に」「これが好き」「こ
うしたほうがいい」と、おとなしかつ
た子どもも急に積極的になつて、私
に向かって「ワーウー」としゃべり出
した瞬間がありました。

子どもたちが「音に」「これが好き」「こ
うしたほうがいい」と、おとなしかつ
た子どもも急に積極的になつて、私
に向かって「ワーウー」としゃべり出
した瞬間がありました。

こういった、アイディ

ただ見守っているようなものです。
気持ちが動き出した瞬間を共有して
いるから、変化しても企画の根っこが
ぶれることはあります。こうやって
いくと、自分の投げた玉が「ぎゅーー」
と伸びて、さらには大きくなるよう
な体验ができます。最高の気分です。

自分が一生懸命に生きて感じて、
そこから発想したアイディアを、例
えばスタッフとのコミュニケーション
から生まれ出るものと、混ぜ合わせ
る。そうやって調理すること
で、私が感じた

素材の味が増幅して、多くの人と
分かち合える料理になる。私は自分の
仕事を、そのようなもの

装丁を担当した育児書 大河ドラマ「江～娘たちの戦国～」の三編集版メインポスター。
グッズデザイン賞を受賞。アートディレクションを担当。



バムービー」をつくりました。それぞ
れの思い出のシーンをフレーム
に描き、思い出の場所でその
シーンを演じて撮影・編集
したんです。養老牛小学校
は、来年で閉校してしまいま
す。でも、DVDを再生すると何
度でも、学校のカーテンコールが始
まる。そんなムービーです。ここで
も「縁」を大切に、卒業生や地域の
方にも出演してもらいました。

子どもたちとのワークショップは
おもしろいですよ。子どもは、樂しく
なかつたらすぐに飽きてしまう。
だから本気でおもしろいことを考え
続けて、子どもたちと共犯関係にな
って、私自身が全力で楽しみ続け
るんです。

ただ見守っているようなものです。
気持ちが動き出した瞬間を共有して
いるから、変化しても企画の根っこが
ぶれることはあります。こうやって
いくと、自分の投げた玉が「ぎゅーー」
と伸びて、さらには大きくなるよう
な体验ができます。最高の気分です。

自分が一生懸命に生きて感じて、
そこから発想したアイディアを、例
えばスタッフとのコミュニケーション
から生まれ出るものと、混ぜ合わせ
る。そうやって調理すること
で、私が感じた

素材の味が増幅して、多くの人と
分かち合える料理になる。私は自分の
仕事を、そのようなもの

装丁を担当した育児書 大河ドラマ「江～娘たちの戦国～」の三編集版メインポスター。
グッズデザイン賞を受賞。アートディレクションを担当。

バムービー」をつくりました。それぞ
れの思い出のシーンをフレーム
に描き、思い出の場所でその
シーンを演じて撮影・編集
したんです。養老牛小学校
は、来年で閉校してしまいま
す。でも、DVDを再生すると何
度でも、学校のカーテンコールが始
まる。そんなムービーです。ここで
も「縁」を大切に、卒業生や地域の
方にも出演してもらいました。

子どもたちとのワークショップは
おもしろいですよ。子どもは、樂しく
なかつたらすぐに飽きてしまう。
だから本気でおもしろいことを考え
続けて、子どもたちと共犯関係にな
って、私自身が全力で楽しみ続け
るんです。

ただ見守っているようなものです。
気持ちが動き出した瞬間を共有して
いるから、変化しても企画の根っこが
ぶれることはあります。こうやって
いくと、自分の投げた玉が「ぎゅーー」
と伸びて、さらには大きくなるよう
な体验ができます。最高の気分です。

自分が一生懸命に生きて感じて、
そこから発想したアイディアを、例
えばスタッフとのコミュニケーション
から生まれ出るものと、混ぜ合わせ
る。そうやって調理すること
で、私が感じた

素材の味が増幅して、多くの人と
分かち合える料理になる。私は自分の
仕事を、そのようなもの

装丁を担当した育児書 大河ドラマ「江～娘たちの戦国～」の三編集版メインポスター。
グッズデザイン賞を受賞。アートディレクションを担当。



装丁を担当した育児書 大河ドラマ「江～娘たちの戦国～」の三編集版メインポスター。
グッズデザイン賞を受賞。アートディレクションを担当。

さまざまな自主事業の概要を、わかりやすくお伝えします。

アートゼミ事業



『さよなら』&『トーキセツション』

テーマ「新たな」ミュニケーション／表現の可能性」

人間と共に生するロボット研究の大坂大学・石黒浩教授と、劇作家・演出家の平田オリザ氏が協働している

「ロボット演劇」。

新たな表現の可能性を示す、

北海道「初」のアンドロイド演劇の上演と、

同時にこなされた「トーキセツション」の様子をご紹介します。

・平成23年8月6日(土)・キューブガーデン
・参加者数:延べ472名(2公演とトーキセツション)

アンドロイドを通じて
見えてくるもの

ロボットは、基本的な機能があれば人間にられるわけではありません。それで、家の中ではどう振舞うか、学校ではどう振舞うかなど状況に応じた動き、その場に合った人間らしい動きを理解しないまましゃべり続けるという、「壊れた機械」になってしまっています。

ロボットは、基本的な機能があれば人間にられるわけではありません。それで、家の中ではどう振舞うか、学校ではどう振舞うかなど状況に応じた動き、その場に合った人間らしい動きを理解しないまましゃべり続けるという、「壊れた機械」になってしまっています。

う感じでした。

石黒 演劇に興味をもつたのは、いからロボットをつくっても、人間らしくならないからです。

たとえば、研究者は状況などを一切考えずに、ロボットにしゃべったり動かしたりする機能をつけます。ですが、そうしたロボットを家の中に持つていても、まわりの状況を理解しないまましゃべり続けるという、「壊れた機械」になってしまっています。

ロボットは、基本的な機能があれば人間にられるわけではありません。それで、家の中ではどう振舞うか、学校ではどう振舞うかなど状況に応じた動き、その場に合った人間らしい動きを理解しないまましゃべり続けるという、「壊れた機械」になってしまっています。

小野 平田さんは、「将来的には劇団員の半分くらいがロボットになるのでは」と発言されていますが、その真意はどのようなものでしょうか。ロボットになって変わったことはほとんどありませんでした。

小野 平田さんは、「将来的には劇団員の半分くらいがロボットになるのでは」と発言されていますが、その真意はどのようなものでしょうか。ロボットになって変わったことはほとんどありませんでした。

平田 僕は普段から精神的な「ダメ出し」はほとんどしません。初めて稽古に入った時、何がシヨックだったかというと、役者への「ダメ出し」とロボットへの「ダメ出し」が全く同じだったことです。自分はいつも、役者に指示を出す時、「もっと熱く」と言うのではなく、「右15度に首を傾けて」と具体的に言うのですが、それはロボットにそのまま使える演出方法だったのです。ですから、ロボットになつて変わったことはほとんどありませんでした。

平田 つきつめていくと、ロボットと役者の差は、原理的にはないのであります。ただ、ロボットにも得意なものと不得意なものというのがあります。それは人間にも同じことが言えます。

たとえば、高いところから墜落する

平田 6年前に大阪大学の教授になつたのですが、石黒先生がアンドロイドの最先端の研究をされていることに興味をもちました。さらに、人の動きに近いロボットの研究を既になさっていたので、渡りに船とい

小野 6年前に大阪大学の教授になつたのですが、石黒先生と最初に話していたのは、とにかく博覧会型のロボットはやめましょうということでした。ロボットが展示され、ボールを蹴る動きをしても、最初はみんな驚きま



平田 オリザ
Hirata Oriza

東京都生まれ。劇作家・演出家・こまばアゴラ劇場芸術監督・劇団「青年団」主宰・大阪大学コミュニケーションデザイン・センター教授など多数。今後、アンドロイド演劇の海外公演を予定。



石黒 浩
Ishiguro Hiroshi

滋賀県生まれ。大阪大学大学院基礎工学研究科システム創成専攻教授。ATR石黒浩特別研究室室長。自身のコピーロボットである「ジェミニノイド」など多数のロボットを開発。最先端のロボット研究者として世界的に注目されている。



小野 哲雄
Ono Tetsuo

北海道生まれ。北海道大学大学院情報科学研究科教授。コミュニケーション指向ロボットなどに関する研究に従事。日常活動型ロボット「ロボビー」を石黒氏と共同開発。

ロボットだったらそのような演出も可能になります。

石黒

平田さんは、アンドロイドを演劇に使って、「演劇は人間がやるもの」という常識を打ち破りたいとおっしゃいました。そこがいちばん大事なところではないかと思いました。

平田

驚くのは、ロボット同士の会話で、泣いてしまう観客がいることです。今までは「演劇は人間が生でやるから素晴らしい」と思いこんで

いました。でも、人間ではなくても「生で演じるから素晴らしいんだ」ということがわかつたのです。そこが演劇の本質的な面白さではないでしょうか。

ロボットを用いることで、演劇自体を問い合わせきっかけになつたのです。

「コミュニケーションの力を生み出す、新しい可能性」

小野

ロボットコミュニケーション能力とロボット演劇の可能性についてお聞きしたいのですが、平田さんが書かれた本では、将来、演劇という科目が必要になることを重要視されていますね。

平田

日本では「中身が良ければ伝わる」と教わる傾向にあります。でも、本当に良いものは、伝わりにくいくらいと思うのです。本当に良いということは、学問の世界ではオリジナリティがあるということで、それは「人と違う」ということです。そのため

に最初は理解されにくいはずなのです。ですから、中身が良い時ほど一所懸命、説明しなければいけないのですが、日本の研究者は「表現する」ための教育を受けていないので、海外では成果が認められにくくなってしまうのです。

どういうお考えをお持ちでしょうか。

石黒

面白いことに、アンドロイドを使つたほうが会話が進むケースというのが、たくさんあります。たとえば、今回の作品に使つたアンドロイドのモデルは、とても人見知りをする女性でした。でも、アンドロイド越しだと、人前でもしゃべることが出来るんです。生の人間は威圧感などがあるため、アンドロイド越しのほうが話しやすいと思うようです。

小野

最後に、今後のアンドロイド演劇の展望をお願いします。

石黒

特にこの半年間、かなり真剣にアンドロイド演劇に取り組んできました。これは人間そつくりのアンドロイドをつくるための研究ではなく、「人間とは何か」を理解するための、アンドロイドを使った新しい分野の研究なのです。この成果をもとに、今後4~5年の間で、ロボット工学の新分野を立ち上げていけたらと思います。

平田

30年近く演劇をやっていますが、こんなに新しい素材は初めてなので、もの珍しいだけで終わるのか、あるいは演劇を本質的に革新するものになるのかは、正直に言うと自信がありません。でも、アンドロイド演劇は、世界で初めての取り組みです。そんな機会は一生のうちに何度もないので、そのチャンスをいたしました以上、いきつくところまでやつてみたいと思います。



あらすじ

死を目の前にした人間に、ただ詩を読み続けるアンドロイドと、一人の少女の物語。

谷川俊太郎、ランボー、若山牧水などの詩を、アンドロイドが淡々と読み続ける中で、人間とロボットの、まったく新しい関係が示される。



▲遠隔操作で動く人間そっくりの外観のアンドロイドと、生身の女優が共演する20分ほどの舞台。

アンドロイドの動きや声を演じるのは、劇団「青年団」の女優・井上美奈子さん。楽屋から舞台のモニターをみながらマイクでセリフを言い、タッチパネルで操作し、アンドロイドに動きをつけます。首をかしげるなどの演技は井上さんの動きをセンサーが感知し、アンドロイドに反映されるようになっています。

驚くのは、ロボット同士の会

話で、泣いてしまう観客がいることです。今までは「演劇は人間が生でやるから素晴らしい」と思いこんで

たのです。

道内各地で芽吹いている舞台作品
それらの魅力を紹介します。
まちの文化創造事業(シアタープログラム)

stage

新冠ビッグバンド ジャズフェスティバル 2011

平成23年9月17日[土]・18日[日]
会場／新冠町レ・コード館

2009年から開催されている

「新冠ジャズフェスティバル」。20世紀の偉大な文化遺産であるレコードを、世界的なスケールでコレクションした「レ・コード館」のステージで、前夜祭・本祭と2日間にわたって、毎年初秋におこなわれる、道内のビッグバンドによるコンサートです。

前夜祭は、結成が1973年の新冠町のビッグバンド「ブルーホース」によるコンサート。

本祭では、1997年から活

動を始めた、地元の小学生から中学生までの子どもたちで編成されたビッグバンド、「レ・コード館 ジュニアジャズバンド(RJB)」「レ・コード館 キッズバンド(RKB)」や、道内の大学のビッグバンドサークル、札幌を主な拠点にして活動する、子どもたちだけのビッグバンド「北海道ジュニア・ジャズ・ワークショップ(HJJW)」による演奏がおこ

「レコードのまち」新冠からジャズを発信



RJB
NIIKAPPU

▲今年、「RJB」から独立して活動を始めた「RKB」
◆本祭の最後を飾った「RJB」の演奏





地元の音楽を、自分たちで
成長させていくフェスティバル
NPO法人レ・コード館自主企画委員会
吉田 純平

今年でフェスティバルは3回目を迎えました。始まりは、「ブルーホース」や「RJB」など、道内で活動している地元の音楽愛好家が活躍できる場をつくり、聴いている方も満足できるフェスティバルを開催しようというものでした。

これまで手探りで進めてきましたが、昨年は札幌から大学サークルが参加し、今年はプロのアーティストと共に演ずるなど、演奏も運営も徐々にレベルアップしています。

著名なアーティストを呼ぶだけでは、たくさんのお金をかけても一回限りで終わってしまいます。ですが、地元の人が中心となってつくり上げ、成長していく。このような機会は、地域の文化芸術を担う若者たちにとって貴重な経験になります。質の高さを目指しながら、来年、また次へと続けていきたいと思います。

なされました。両日とも、会場内に飲食ブースが設置され、飲み物などを飲みながら、ゆったりとピッケンバンドのジャズ演奏を楽しむ工夫が凝らされました。
夏休み期間中、「RJB」と「RKB」、「HJJW」の合同でプロの講師によるワークショップも開催。講師の指導はもちろんのこと、参加者が同士が教え合い、交流を深めながら基礎技術を磨き、フェスティバルに向けての曲を練習しました。毎年グレードアップしている「新冠ビッグバンドジャズフェスティバル」は、ジャズを心ゆくまで楽しむ、新冠の新しい初秋の風物詩となりました。



ゲストの「2ボーン・クインテット」と「RJB」のメンバーが共演しました。



ワークショップは、「レコード館」を使いパート練習、合奏練習など、充実したレッスンがおこなわれました。



サプライズで、ジャズピアニスト・小曾根真さんからのビデオレターが上映されました。



「HJJW」と「RJB」による合同演奏の一幕も。



札幌からの参加大学サークルは3バンド。

■まちの文化創造事業(シアタープログラム)

地域のみなさんが参加する自主的・創造的な、音楽・演劇・舞踊等の舞台発表活動及び普及活動(ワークショップ、レクチャー等)を共催します。

- ・公募キャスト、スタッフによる市民参加の舞台公演など
- ・複数地域から参加する演劇祭、音楽祭など

写真／西山 大介

▼「白バラ合唱団」と「まおいコーラス」による合唱



From NAGANUMA

地域からの お便り

文化の宅配便事業

歌のチカラ！～NPO法人札幌室内歌劇場公演「唱歌の学校」を終えて～

長沼町青年団体協議会白バラ合唱団 横岡 亜希子

地域でおこなわれているユニークな活動の紹介を、寄稿文でお届けします。

長沼町の「白バラ合唱団」は、町の青年団体協議会のメンバーで結成したサークルです。今回、文化の宅配便事業でおこなわれた、

「NPO法人札幌室内歌劇場」による「唱歌の学校」の公演では、上演前の「町内合唱団ブチ演奏会」で発表する機会をいただきました。

実は、最初に「歌劇場の希望として、地元の合唱団とコラボレーションがしたい」と聞いていたので、「オペラの団体がいらっしゃるのだから、私たちも一緒にドレスなどを着て、あるいは写真に載っていたような小学生の衣装を着て、オペラや台詞を？」と解説していました。

公演前におこなわれたワークショップは、出演される則竹正人さんが指導してくださいました。当日演奏する楽曲の楽譜から、細かい発音の仕方など、大変楽しいワークショップで、あつという間に時間が過ぎてしまいました。

当日、「白バラ合唱団」は「モルダウの流れ」「赤い花白い花」の2曲、そして町内の合唱団体である「まおいコーラス」との合同で「大型讀頌」を歌いました。公演の最後には出演者の皆さん、会場の皆さんと一緒に「月」「ふるさと」の大合唱で終了しました。

事業を終えて、純粋に「やっぱり歌ってすごい！」、そう思いました。テレビ番組やCMで聞きなれた曲もあり、「良いものは語り継がれる」なんて言葉が頭に浮かびました。

言葉は、メロディーにのせて「歌うこと」によって、深みが増します。きっと歌うことの始まりは、「人に何かを伝えるため」、「強くその想いを残していくため」に生まれ、唱歌と呼ばれるものも、古き良き日本を伝えていくために、今日まで歌い続けられてきたのだと思います。

ダウの流れ」「赤い花白い花」の2曲、そして町内の合唱団体である「まおいコーラス」との合同で「大型讀頌」を歌いました。公演の最後には出演者の皆さん、会場の皆さんと一緒に「月」「ふるさと」の大合唱で終了しました。

どんな歌を歌う時にも、込められた想いをしっかりと感じ取り、自分たちらしい表現で伝えることができるような合唱団を目指して歌っていきたいです。

どんな歌を歌う時にも、込められた想いをしっかりと感じ取り、自分たちらしい表現で伝えることができるような合唱団を目指して歌っていきたいです。

北海道文化財団 自主事業 実施レポート

長沼町

札幌室内歌劇場「唱歌の学校」

実施日：ワークショップ：平成23年8月24日(水)
公演：平成23年8月27日(土)場所：長沼町民会館
参加者：公演140名

学校を舞台として、先生・生徒を演じ、「すずめの学校」「ふるさと」書の小川」「伸びば尊し」など全29曲を生伴奏付きで上演。公演の前には、「まおいコーラス」「長沼町青年団体協議会白バラ合唱団」による、長沼町内合唱団ブチ演奏会がおこなわれました。

【釧路市阿寒町】

金子章太郎「和太鼓コンサート」あかん」

実施日：公演：平成23年9月22日(木)
ワークショップ：平成23年9月23日(金)場所：釧路市阿寒町公民館
参加者：公演240名
ワークショップ：20名

脱力を中心とする「ゆるみ打法」による和太鼓演奏。独自のオリジナル奏法を自身による作曲、編曲で演奏。また、地元の太鼓メンバーへ、自身の「ゆるみ打法」の指導がおこなわれました。

「鮭の一生」をテーマに、写真繪本を作成するワークショップの第1回目。今回は、鮭の週上を撮影するほか、鮭巻屋や漁師さん、養殖場など、鮭に関わる地域の暮らしや人々を子どもたちが取材。石川さんからアドバイスをもらい、写真繪本の構想について話し合いました。



長沼町青年団体協議会
白バラ合唱団 横岡 亜希子

長沼町青年団体協議会内の有志によるサークル「白バラ合唱団」で活動中。平成13年発足以来、北海道青年祭・全国青年大会に出場するほか、成人式や音楽団体主催の行事などに出演。第55回(H18)～第56回(H21)の全国青年大会合唱の部で最優秀賞を受賞している。

アート体感教室

【浦幌町】

石川直樹「鮭の一生ドキュメント」

講師：石川直樹(写真家・冒険家)

実施日：平成23年9月19日(月)～9月21日(水)

場所：浦幌町立厚内小学校
参加者：全校生徒10名

礼文町

れ
ぶん
ちょう

人から人へ、そして一人から大勢へ。
生活シーンでのアートの可能性は、人を通して無限に広がっていきます。
地域の文化力を支えている、道内の町や村の活動者を紹介します。

花の命の営みを撮り続ける

舞台に上がる7人のメンバーは、学校の先生や自営業、漁師など、職業も年齢もさまざま。行事への出演が決まると、忙しい合間をぬって、気合いの入った練習が続きます。持ち曲は、彼らによって大切に後世へ伝えられています。

植物写真家・エッセイスト
榎田 美野里さん Somada Minori

固有種を含む約250種の高山植物が自生し、「花の島」と称される礼文島。19年前からこの地で暮らす写真家の榎田さんは、礼文、利尻、サロベツを中心に撮影し、多くの著書や写真展で、植物の命のドラマを紹介しています。

以前は東京で活動し、お子さんの誕生を機に、家族で移住しました。「わざわざ旅に出で撮影していた頃と違い、ここでは高山植物は隣人なんです。この花はこんな群生する風景は、私たちの貴重な財産です」。毎年楽しみに来てくれる島でありたいと、自然を保護する活動にも取り組みながら、これからも愛する島の魅力を伝え続けます。

怒哀樂を感じさせるような姿や、ひつそりと生まれ、閉じていく命の一瞬の輝き。榎田さんのファインダーを通して見る花の意外な表情に、花を愛する多くの人が新たな魅力を発見しているようです。

「海をバックにこれだけの花が群生する風景は、私たちの貴重な財産です」。毎年楽しみに来てくれる島でありたいと、自然を保護する活動にも取り組みながら、これからも愛する島の魅力を伝え続けます。



力強い太鼓のリズムに礼文の情景を重ねて

礼文太鼓保存会 会長
遠藤 伸樹さん Endo Nobuki

礼文太鼓の演奏が初めて披露されたのは昭和55年、礼文町開基100年を祝う記念行事でのこと。町の節目を機に、新しい郷土芸能を創つてほしいという地域住民の声から、有志により結成されました。その後には保存会が発足。行事での演奏や、小学校での指導を積み重ね、地域に根づいてきました。

「待ちこがれた春の訪れをうたう『北限太鼓』、礼文固有の植物アツモリソウに島の人々の姿を重ねた『あつもり太鼓』など、礼文太鼓の曲は、島の自然の美しさや、いかに表現できるかが、難しくも厳しさを描いています。それぞれの曲に込められた想いや、情景をいかに表現できるかが、難しくもあり面白いですね」と、保存会の4代目会長で、太鼓歴20年の遠藤さん。

演奏は町の行事のほか、島外の観光イベントでも。「郷土芸能を後世に伝えていくだけでなく、外に向けても、太鼓を通して島の魅力を発信していく」。大切に育ててきた礼文太鼓の躍動感あふれるリズムが、島内外の人たちを結ぶ架け橋になっています。

希少種や固有種も多い礼文の植物を守るために、島民といえども歩道から中へ入ることはできません。何千回となく歩いた歩道からでも、「毎日見るたびに新しい発見があります」。そのたくさんの「発見」を、榎田さんの著書に見ることができます。



花が見頃を迎える春から秋にかけては、毎日のように撮影へ。喜

化を見ていられるのが楽しくて」と、うれしそうに話します。

花が見頃を迎える春から秋にかけては、毎日のように撮影へ。喜

礼文町

礼文町ゆかりの文化の担い手たち

[菅原社中代表]

菅原 保子さん Sugawara Yasuko



[礼文町カルタ爱好者会 事務局長]

平山 浩明さん Hirayama Hiroaki



平成16年に発足した爱好者会の発起人の一人。主に船泊地区の子どもたちを対象に、冬期間の放課後や休日などを利用して、下の句カルタの指導をおこなっています。

[礼文油絵爱好者会 代表]

古川 照和さん Furukawa Terukazu



礼文の風景や生活を描き、稚内在住画家とのグループ展も共催。爱好者会活動を精力的に行なながら、礼文町文化協会事務局長として、文化芸術活動の振興にも尽力しています。

[環境NPO礼文島自然情報センター 代表]

村上 賢治さん Murakami Kenji



礼文島の文化財でもある高山植物の素晴らしさを、島内外に発信。盗掘防止活動や外来植物除去など、自然保護活動にも精力的に取り組み、多忙な日々を送っています。

縄文から現代まで、礼文の歴史を後世に

礼文町教育委員会 主任学芸員

藤澤 隆史さん Fujisawa Takashi

町内唯一の表千家の指導資格者として教室を開いているほか、町内の小中高校から茶道体験も受け入れています。

今、特に力を注いでいるのは縄文時代の遺跡や遺物の紹介です。今年5月には郷土資料館をリニューアルし、縄文時代の展示物を2倍に増やしました。なかでも平成10年に藤澤さんも発掘調査にたずさわった、船泊遺跡からの出土品は、全国的にも注目の遺物。今からまたここ数年は、礼文の近代史の資料収集にも、積極的に取り組んでいます。

「礼文島では、現在50カ所の遺跡が確認されています。出土品の種類の多さや、保存状態の良さなどから、考古学者の間では有名な島なんですよ」。遺跡の調査研究を行なう学芸員の藤澤さんは、島に眠る歴史的遺産の素晴らしさを、島内外の人々に伝えてきました。

今、特に力を注いでいるのは縄文時代の遺跡や遺物の紹介です。今年5月には郷土資料館をリニューアルし、縄文時代の展示物を2倍に増やしました。なかでも平成10年に藤澤さんも発掘調査にたずさわった、船泊遺跡からの出土品は、全国的にも注目の遺物。今からまたここ数年は、礼文の近代史の資料収集にも、積極的に取り組んでいます。

「礼文島では、現在50カ所の遺跡が確認されています。出土品の種類の多さや、保存状態の良さなどから、考古学者の間では有名な島なんですよ」。遺跡の調査研究を行なう学芸員の藤澤さんは、島に眠る歴史的遺産の素晴らしさを、島内外の人々に伝えてきました。



船泊遺跡の出土品からは、縄文人が交易によってヒスイやイモガイなど、道内では産出しない貴重品を手に入れていたことが、藤澤さんの調査で判りました。「知れば知るほど面白い島の歴史を、積極的に伝えていく」と意欲的です。

豊かな自然を糧に、北の大地ならではの食文化を育む北海道。地域の食育活動を紹介します。



礼文町の食育

食育がつなぐ人の輪が、島民の健康を支え続ける

四方を海に囲まれ、ウニや昆布、ホッケなど、海産物に恵まれた礼文島。豊かな海の幸を使った料理教室を通して、正しい食生活を学び、実践してもらおうと、約25年前に町の女性たちによるボランティア組織、礼文町食生活改善協議会が発足しました。

現在は、親から子へ、魚の調理法を伝える機会が減ってきていることから、地域住民を対象とした「お魚料理教室」を開催。今年で4回目を迎え、魚の上手なさばき方や郷土料理を学ぶ機会として、幅広い世代が集まるようになりました。

この協議会の事務局を務める、礼文町主任栄養士の能代谷昌子さんは、「メンバーには栄養

の知識を学んだ方もいますし、私も裏方としてサポートしながら、栄養講話の時間を担当しています。自分たちの知識を、今後も幅広く伝えなければ」といいます。

能代谷さん自身は、町の職員として町民の健康を栄養管理面から支える立場。なかでも保育園での食育は、通年で授業をおこなうなど、特に力を入れています。「食育は継続が大切」と、学校の栄養教諭との連携にも意欲的。今年はその初の試みとして、小学生を対象に、食育、風習、英会話を組み合わせた教室を開催するなど、実現し始めています。「食」を通じて、島民を結びつける人の輪が、着実に広がりをみせています。



「今おこなっている食育は、礼文の未来につながる取り組み」。能代谷さんも協議会メンバーも、同じ想いで活動を続けています。

Report 1

平成22年度の「まちの文化創造事業」の共催事業から、特徴的な団体の活動を紹介いたします。

まちの文化創造事業・ギャラリープログラム

北斗市 北海道ユニバーサル上映映画鑑賞行委员会

ハンディキャップのある人もない人も、共に楽しめる
日本語字幕・音声ガイド・ミュージックサインつき映画祭



さらば、映像を見ることができない方のために、場面や背景を説明する「音声ガイド」を用意。複数の車いすスペース、無料の託児サービス、点字資料や誘導・介助スタッフも準備されています。

音が聞こえない・聞きづらい方のために、日本語字幕。スクリーンの横には、挿入歌やBGMを、手話や動作、絵などで表現する「ミュージックサイン」を出す人の姿が。また、補聴器が聞こえやすい空間「磁器ループ」の席があり、案内やゲストのトークなどには、手話通訳や要約筆記が用意されています。

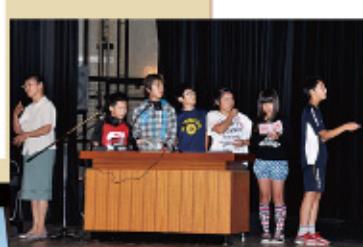
函館湾を挟んで函館山を望む北
斗市で、例年9月に開催される「北
海道ユーバーサル上映映画祭」。
これは、ハンディのある人・ない
人が隔てなく、同じ空間で映画を
楽しめるように配慮して上映され
る映画祭です。

20

映画祭誕生の発端は、映画上映サークルでの活動にあるそうですが、平成14年、たまたま日本語字幕つきの作品を上映して好評を得たことから、「音が聞こえない人は、字幕のある洋画しか観ていない」「映像が見えない人も、映画を楽しみたいと思っている」といったことを知り、「ハイキャップの人もあるかもしれない人も、共に楽しめる映画祭を」と思いから、「北海道ユニバーサル映画祭実行委員会」を組織して、平成18年に第1回の映画祭を開催しました。

「よう」と橋本さん。映画本来のテーマを阻害せず、映画としてのクオリティーをおとさないユーバーサル上映。健常者にどうでも字幕・ガイド・サインが理想だそうです。

日本語字幕・音声ガイドを上映側でつけることは、著作権法では問題ありません。しかし、配給元に確認すると、「許可をもらえない」作品もあるのだとか。「映画祭を通じて、ユーバーサル上映への理解が広がってくれれば」。実行委員そして地域の学生たちの願いです。「社会には、障がいを持つた人を含めいろんな人がいて、成り立っています。ですが、健常者がそれを身近に感じる機会は少ないと感じます。そこで、映画祭をきっかけに、そのような日常に気がついてもらいたいのです。この狙いから、映画祭では地域の高校生に日本語字幕と音声ガイドの制作を体験してもらうなどのワークショップもおこなっています。



第6回北海道ユニバーサル上映映画祭

平成23年9月16日(金)～9月18日(日) 場所／北斗市総合文化センターかなで～る

まちの文化創造事業 ギャラリープログラム

地域のみなさんが参加する自主的・創造的な、美術、文芸、映像等の各種文化発表活動及び普及活動（ワークショップ、レクチャー等）を共催します。

《例》

- ・一般市民が参加し、普及活動を伴う展示会など
- ・公募キャストによる地域を題材とした映画制作など

-

若手芸術家発表事業

能登谷 安紀子(ヴァイオリン)

【砂川市】

- コンサート
場所:砂川市地域交流センターゆう大ホール
日時:平成23年11月5日(土)18:30開演

●アートリーチ

- 場所:砂川市立病院多目的ホール
開催日:平成23年11月6日(日)
対象:入院患者、通院患者及び一般

【様似町】

●コンサート

- 場所:様似町中央公民館
日時:平成23年12月9日(金)18:30開演

●アートリーチ

- 場所:様似中学校体育館
開催日:平成23年12月9日(金)
対象:全校生徒

【北斗市】

●コンサート

- 場所:北斗市総合文化センター小ホール
日時:平成23年12月15日(木)18:30開演

●アートリーチ

- 場所:上郷小学校、浜分小学校
開催日:平成23年12月16日(金)
対象:各全校生徒

トリオ・アンジュエ

小林佳奈(ヴァイオリン)/長谷川加奈(ヴァイオリン)/谷敷さなえ(ピアノ)

【京極町】

●コンサート

- 場所:京極町生涯学習センター湯学館視聴覚室
日時:平成23年11月14日(月)18:30開演

●アートリーチ

- 場所:京極中学校体育館
開催日:平成23年11月14日(月)
対象:全校生徒

H A F アートリスト

文化の宅配便 公演のご案内(10~12月)

ユニット・リトルバレエ

【大空町東藻琴】

場所 農村環境改善センター

- ワークショップ:平成23年10月16日(日)13:00~
公演:平成23年10月27日(木)18:30開演

木管五重奏団 ウィンドアンサンブル・ポロゴ

【喜茂別町】

場所 喜茂別中学校

- ワークショップ:平成23年10月20日(木)11:40~
公演:平成23年10月20日(木)16:00開演

【初山別村】

場所 初山別自然交流センター

- 日時 公演:平成23年11月17日(木)13:30開演

【せたな町】

場所 せたな町民ふれあいプラザ

- ワークショップ:平成23年12月8日(木)16:30~
公演:平成23年12月8日(木)13:30開演

北海道舞台塾

2011-12 北海道舞台塾 実験劇場(仮)

参加団体募集

北海道舞台塾実行委員会では、道内の若手演劇関係者のスキルアップのため、演劇界で注目の劇作家をドラマドクターとした実験劇場を開催するにあたり、参加団体を募集します。

実験劇場はドラマドクターが脚本の指導、稽古の立会、公演(プレ公演～本公演)のプロローグを行います。

スケジュールは1月にプレ公演、さらに作品をブラッシュアップさせて3月に本公演を行います。

■ドラマドクター

畠澤 聖悟(渡辺源四郎商店/青森)
福原 充則(ビチチ5/東京)
御笠ノ 忠次(案山子堂/東京)

■公演日程

プレ公演:平成24年1月16日(月)～22日(日)
本公演:平成24年3月5日(月)～11日(日)
(※この期間中どこでも上演が可能な事)

■会場

生活支援型文化施設コンカリーニョ
(札幌市南区八軒1条6丁目ザ・タワーレイズ1F)

■上演形態

1.上演時間:1時間程度
2.舞台:基本は裏舞台

■募集要項等の詳細は、当財団まで。



Report 2

まちの文化創造事業・ギャラリープログラム



松前町

文化の香り漂う書のまちづくり推進協議会

郷土が産んだ偉大な書家・金子鶴亭

小学生から大人まで「書の文化」に親しむまちづくり

金子鶴亭は「親しみやすい書」をめざして、漢字とかなの入り文じつた近代の詩句を表現するのにふさわしい「近代詩文書」を提唱。戦後は書道界の発展に力を尽くし、書家として二人目となる文化勲章を受章した大家です。

町内に鶴亭の書作品が多いこともあり、松前町では「書の文化を核としたまちづくり」が進められています。町の教育指針条例で「書を愛する心を育てる」を柱として

前町には、「北鶴碑林」という日本最大級の書碑林があります。ここに並ぶのは、松前町出身の書家・金子鶴亭と、その門人の書を彫り込んだ84基の石碑。鶴亭の生涯100年にあわせ、その業績を讃え、松前を書道文化の発信地とすべくつくられました。

このような背景から設立されたのが、「文化の香り漂う書の町づくり推進協議会」です。協議会では、小中学生を対象とした書き初め席書大会や、書道セミナーを実施。さらに、子どもたちに書道を教える教職員を対象とした講座を開き、指導者の育成を図っています。

さらに、町の全域への書の普及をめざし、書道サークル団体への支援などもおこなっています。

「書のまちづくり」の中心は、次代を担う子どもたちへのアプローチです。「書のまちづくり」の中心は、次代を担う子どもたちへのアプローチです。「書のまちづくり」の中心は、次代を担う子どもたちへのアプローチです。

金子鶴亭記念松前町児童生徒書き初め席書大会

平成24年1月6日(金)
場所/松前町民体育館

書道セミナー in 松前2011

平成23年5月28日(土)・29日(日)
場所/松前町立松城小学校体育館

を図っています。

金子鶴亭は、「美しい文字、美しい心」を指導した書家。その心に沿い、書に親しむ気運をより一層高めつつ、心の豊かさを育て、偉大な書家を産んだ郷土に対する想いを育む—その取り組みが、続かれています。



金子鶴亭記念松前町児童生徒書き初め席書大会

平成24年1月6日(金)

場所/松前町民体育館

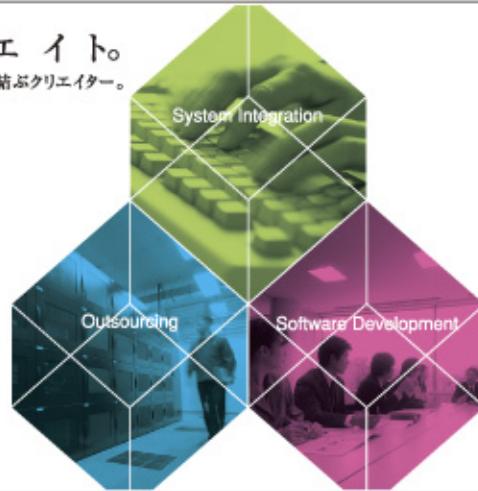
書道セミナー in 松前2011

平成23年5月28日(土)・29日(日)

場所/松前町立松城小学校体育館

ITで未来をクリエイト。

私たちHBAは、お客様とお客様の未来を先進のITで結ぶクリエイター。



3つの事業をリレーション。

最適な情報システムの提案、構築、運用を
万全のセキュリティで総合的に行います。

- システムインテグレーション事業
求められるニーズに対し基本設計から保守に至るまで総合的なソリューションを行います。

- アウトソーシング事業
万全のセキュリティ対策で、お客様の事業における情報化投資の削減をサポートします。

- ソフトウェア開発事業
プロジェクトマネジメント力を生かし、確かな品質と最先端の技術力を提供します。

 株式会社 HBA

〒060-0004 札幌市中央区北4条西7丁目1番地8
TEL011-231-8301 FAX011-281-0915
<http://www.hba.co.jp/>



ご用意しているのは、心地よい時間
庭園という名のホテルでお逢いしましょう。

ご宿泊 ご宴会 ご会合 ご婚礼



RESTAURANT

スパ

四川飯店

地下レストラン

味の会



Gp ホテル札幌カーテンパレス 〒060-0004
札幌市中央区北1条西6丁目(道庁南側)
TEL(011)261-5311 FAX(011)251-2938 URL <http://www.hotelgp-sapporo.com/>



愛をとおして真理へ



天使大学

看護栄養学部／看護学科・栄養学科

大 学 院／看護栄養学研究科

[看護学専攻] ホスピス・緩和ケア看護学コース／公衆衛生看護学コース／精神看護学コース

[栄養管理学専攻] 博士前期課程／博士後期課程

助産研究科

[助産専攻] 助産基礎分野／助産教育分野

〒065-0013 北海道札幌市東区北13条東3丁目1-30 tel.011-741-1051(代) <http://www.tenshi.ac.jp>

ホテルで過ごすひとときには「くつろぎ」という贅沢を。



札幌東武ホテル TEL011-242-0111



Best Rate

ベストレート宣言

札幌東武ホテルを予約するなら
ホームページからが最安値です。

札幌 東武 検索